

- 問1 三内丸山遺跡の調査結果から推測される、縄文文化の生活や社会の様子について正しく説明しているものはどれですか。（2024年 福島県公立入試 類似）
1. 前方後円墳などの巨大な墳墓が築かれ、広域を支配する強力な王権が誕生していた。
 2. 大陸から青銅器や鉄器が伝わり、武器や祭具として使用されることで集落間の争いが激化した。
 3. 豊かな自然環境を背景に、狩猟・採集・漁労を行いながら大規模な定住生活を営んでいた。
 4. 大規模な灌漑設備を用いた水田稲作が普及し、食料を蓄えるための高床倉庫が主流となった。
- 問2 縄文時代につくられた素焼きの人形で、豊かな収穫や病気の回復、魔除けなどを祈るために用いられたとされる遺物を何といいますか。（2026年 熊本県公立入試 類似）
1. 土偶
 2. 銅鐸
 3. 埴輪
 4. 石包丁
- 問3 青森県にある三内丸山遺跡の特徴を説明した新聞記事において、この遺跡が「縄文時代の生活観を大きく変えた」とされる理由として、当時の人々の暮らしの様子を正しく説明しているものはどれか。（2025年 北海道公立入試 類似）
1. 本格的な稲作が始まり、食料を蓄えるための高床倉庫や、周囲を堀で囲んだ環濠集落が形成された。
 2. 打製石器を用いてナウマン象やヘラジカなどの大型動物を追いながら、移動生活を繰り返していた。
 3. 青銅器や鉄器などの金属器が普及し、身分の差が生まれるとともに大規模なクニ同士の争いが起きた。
 4. 大型掘立柱建物跡や多数の竪穴住居が見つかり、長期間にわたる大規模な定住生活が行われていた。
- 問4 石器時代の道具や生活の変化について述べた文として、縄文時代の特徴を正しく説明しているものはどれですか。（2018年 徳島県公立入試 類似）
1. 青銅器や鉄器が大陸から伝わり、石器は次第に祭祀用の道具へと変化していった。
 2. 本格的な水田稲作が広まったことで、石包丁を用いた穂首刈りが一般的になった。
 3. 氷河期が終わり温暖な気候になる中で、石をみがいた磨製石器や土器が使われ始めた。
 4. マンモスなどの大型の獣を追うため、移動生活に適した打製石器のみを使い続けた。
- 問5 縄文時代の遺跡である貝塚の周辺から発見される、表面に縄目などの特徴的な文様が施された道具について、その主な使用目的を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2019年 群馬県公立入試 類似）
1. 大陸から伝わった青銅器や鉄器を加工するための、高温の炉として用いられた。
 2. 収穫した稲を長期間蓄えるための、貯蔵専用の器として主に用いられた。
 3. 亡くなった人を埋葬する際に、副葬品として納める祭祀専用の道具として用いられた。
 4. 採取した木の実などの食料を煮炊きしたり、保存したりするために用いられた。
- 問6 縄文時代における自然環境の変化と人々の暮らしの関係について、正しい背景を説明しているものはどれですか。（2022年 山口県公立入試 類似）
1. 寒冷化によって大型動物が絶滅したため、人々は食料を求めて移動を繰り返す洞穴での生活を余儀なくされた。
 2. 激しい気候変動を乗り切るために、共同体で大規模な金属器の生産を行い、近隣の集落と食料を奪い合う戦争が日常化した。
 3. 大陸と陸続きになったことで新たな家畜が持ち込まれ、広大な牧場での放牧を主体とした生活へと移行した。
 4. 温暖化により落葉広葉樹林や照葉樹林が広がり、ドングリなどの木の実が豊富になったため、採集活動が重要な食料確保手段となった。
- 問7 日本の歴史において、縄文時代に定住生活が始まり、生活が安定する中で普及した、表面をみがいて形を整えた石器を何と呼びますか。（2018年 徳島県公立入試 類似）
1. 磨製石器
 2. 打製石器
 3. 鉄器
 4. 青銅器
- 問8 縄文時代の遺跡に関する調査報告において、「集落の近くから丸木舟が発見されたこと」と「大規模な貝塚が形成されていたこと」が同時に示される場合があります。これらの事実から導き出される、当時の人々の生活背景として最も適切な説明を選びなさい。（2024年 大分県公立入試 類似）
1. 海や川の資源を積極的に利用しており、漁労が生活を支える重要な手段であった。
 2. 大陸との公的な交易を行うため、大型の船を建造して組織的な外交を行っていた。
 3. 稲作が普及したことで定住が進み、余った食料を貯蔵するために大規模な施設を作った。
 4. 集落間の争いが激化したため、外敵の侵入を防ぐ目的で集落の周囲に堀を巡らせた。
- 問9 約1万年前に地球の温暖化が進んで海面が上昇し、日本列島が形成された時期の生活の様子として、最も適切な説明はどれですか。（2022年 山口県公立入試 類似）
1. 地面を掘り下げた竪穴住居に住み、弓矢を用いた狩猟や木の実の採集、漁を中心とした生活を営んでいた。
 2. 強力な支配者が現れ、自らの権威を示すために巨大な古墳を築き、その周囲に埴輪を並べるようになった。
 3. 大陸から伝わった稲作が本格的に広まり、収穫した米を保存するために高床倉庫が作られるようになった。
 4. 各地で大規模な灌漑施設が整えられ、太陽暦を用いて農作業の時期を管理する生活が始まった。
- 問10 青森県に位置する縄文時代最大級の集落跡についての記述です。この遺跡では、直径約1メートルもの栗の木の柱を用いた巨大な掘立柱建物跡や、当時の人々が居住した大型のたて穴住居跡が数多く発見されています。この遺跡の名称として正しいものを選びなさい。（2024年 福島県公立入試 類似）
1. 吉野ヶ里遺跡
 2. 岩宿遺跡
 3. 三内丸山遺跡
 4. 登呂遺跡
- 問11 縄文時代の人々は、竪穴住居に住み、狩りや漁、採集を行って生活していました。こうした生活の中で、食べた後の貝殻や動物の骨、役目を終えた石器や土器などが一定の場所に積み重なって形成された、当時の生活を知るための重要な考古学的資料となる遺跡を何と呼びますか。（2018年 香川県公立入試 類似）
1. 貝塚
 2. 高地性集落
 3. 古墳
 4. 環濠集落
- 問12 佐賀県の東名遺跡（ひがしみよういせき）では、約8千年前の地層から植物の繊維で編まれた国内最古級の「編みかご」が発見されました。このような発見から推測される、当時の人々の生活習慣や信仰に関する記述として正しいものを次の中から選んでください。（2019年 佐賀県公立入試 類似）
1. 自然の恵みに頼った生活を送っており、魔よけや豊かな収穫を祈るために土偶（どぐう）が作られた。
 2. 仏教の教えが広まり、国家の安泰を願って各地に国分寺や国分尼寺が建立された。
 3. 大規模な灌漑設備を整えて稲作を行い、村同士の争いに備えて周囲に堀を巡らせた環濠集落で暮らした。
 4. 有力な王が各地を支配しており、その権力を象徴するために巨大な前方後円墳が造られた。
- 問13 紀元前2000年ごろ、世界でインダス文明が栄えていた時期の日本列島における生活の様子を説明した文として、最も適切なものはどれですか。（2016年 愛知県公立入試 類似）
1. 金属器が伝来して武器や祭祀の道具として使われ、有力な王を葬るための巨大な前方後円墳が築かれた
 2. 表面に縄の模様がついた厚手の土器を用いて煮炊きを行い、地面を掘り下げて床を作った住居に住んでいた
 3. 土器はまだ作られておらず、ナウマンゾウなどの大型の獲物を追いつつ移動して生活していた
 4. 薄手で硬い赤褐色の土器を用いて食料を保存し、大規模な水田での稲作を中心とした生活を送っていた